

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	14-3																
PDCA	主要事業名	ごみ減量対策事業	部課名	市民経済部環境課	担当 内線	植田 23-3567																	
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 2 - 2 - 2 単位施策： 循環型社会 全体事業期間： 令和 5 年度 ~ 5 年度 全体事業費等： 7,140 千円 会計 一般会計 歳出科目： 04.02.02.10.02																						
	事業概要等	事業概要： 市民及び事業者に対して、ごみ出しルールの徹底とPR及びごみ減量につながる再利用施策の普及に努め、ごみ排出量の減量化を図る。																					
		事業目的： ごみ減量対策のための各種事業を実施し、市民及び事業者へごみ減量につながる再利用施策の普及に努める。																					
		事業内容： 生ごみ堆肥化容器等への設置奨励補助金の交付や、ごみ出しアプリを通じた分別方法の配信等を行う。																					
		問題点・課題等： 家庭系ごみ量と、事業系ごみ量の減量目標達成のため、より一層、ごみ減量・分別・資源化の意識向上を図る必要がある。																					
	予算額 7,140 千円	主要事業とする理由																					
	財源内訳	ごみの正しい分別の普及やごみ減量のための補助金交付など、ごみ減量を図るための根幹となる事業であるため。																					
	市費 0 千円	得られる成果																					
	国費 0 千円	ごみの正しい分別や資源化が徹底されることで、ごみ処理経費等の負担を減少させることができる。																					
	県費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）</td> <td>実績値</td> <td>468</td> <td>460</td> <td>—</td> <td>グラム</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>508</td> <td>466</td> <td>458</td> <td>グラム</td> </tr> </tbody> </table>						目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）	実績値	468	460	—	グラム	目標値	508	466	458
目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																		
市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）	実績値	468	460	—	グラム																		
	目標値	508	466	458	グラム																		
その他 7,140 千円																							
D 実績値と得られた成果	決算額 5,052 千円	得られた成果																					
		市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）の実績値が、令和4年度460グラムに対して令和5年度440グラムと昨年より20グラム減量し、目標（458グラム）を大きく上回る減量を達成することができた。																					
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）</td> <td>実績値</td> <td>440</td> <td>グラム</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>458</td> <td>グラム</td> </tr> </tbody> </table>						成果指標		令和5年度	単位	市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）	実績値	440	グラム	目標値	458	グラム					
	成果指標		令和5年度	単位																			
市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）	実績値	440	グラム																				
	目標値	458	グラム																				
C 課題の整理	事業の評価・課題	B 令和5年度は家庭系ごみ有料化が3年目を迎えたことにより、市民のごみ減量や資源化に対する意識が定着されたことや、半田市公式LINEを通じた分別方法の配信、ごみ減量につながるリユース事業の促進（株式会社マーケットエンタープライズとの協定締結）、生ごみ堆肥化容器等への設置奨励補助金の交付など様々な要因から、市民1人1日あたりのごみ排出量（家庭系）の実績値が令和4年度460グラムに対して令和5年度は440グラムと昨年より20グラムと大きく減量し、目標を達成することができた。引き続きごみ出しマナーの違反が散見される地域があるため、市民に対するごみ出しルールの徹底の注意喚起が必要である。																					
A 今後の課題の解決に向けた方向性	今後の事業の方向性	現状維持 令和6年度の家庭系ごみ1人1日あたりのごみ減量目標値は、大きく減量の成功した令和5年度の実績より更に20グラム減少させた420グラムと設定した。令和6年度の目標値を達成するため、ごみ分別パンフレットの内容改善やごみ減量に関する情報の発信により、ごみ減量化及び資源化の推進を図るとともに、ごみ出しマナーが遵守されるよう監視カメラの設置や不法排出者への直接指導を実施していく。																					
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																	
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	ない																		
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	⑧受益者負担適正化余地	ない																		
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない																					

目標項目（予算計上時に作成）

予算見積書で活用

評価項目（決算時に作成）

主要施策の成果報告書で活用